

# Join!

## 長門湯本観光まちづくり

みんなの力で湯ノバージョン

成長戦略推進課 Tel 23-1234  
長門湯本みらいプロジェクトHP  
<http://yumoto-mirai.jp/>

### 懐かしの湯本フォト



写真提供：湯本まちかど資料館館長 吉富尊一

## 温泉街で進む景観・空間のデザイン

### 「人が主役のランドスケープ」

長門湯本温泉では、全国トップ10に入る魅力的な温泉街となるため、地域の色々な取組とあわせて、公共空間のデザインや整備計画が進んでいます。

目で見えている景観や風景を「ランドスケープ」と呼びます。私たちの周りを取り巻く環境、目で見えている眺めはすべてランドスケープとして捉えることができ、その眺めをより文化的に創造する行為を「ランドスケープデザイン」といいます。

長門湯本温泉の観光まちづくりで大きく変わろうとしているのが景観や空間、すなわちラン

ドスケープです。住む人、訪れる人にとって魅力ある空間づくりには欠かせない重要な役割を担っています。

観光まちづくり計画では、雁木広場や竹林の階段など、新しい景観が示されています。しかし、新しいものだらけになることがその地域にとって本当に良いことなのでしょうか。観光まちづくりでは、新しいものばかりがデザインされていくわけではありません。

現在、デザイン監修のもとに進めているのは、地域の自然や歴史・文化を活かすことです。音信川やそれを形成する岩など

の自然の魅力や先人が残してきた石積みなどを残しながら、樹木、建物などの施設が美しくデザインされます。

そして、最も大切にしているのは過ごす人が豊かな時間を味わえる、人が主役の空間づくりです。地域の人々や観光客がいきいきと過ごしている様子をつくり出すことも、目に映る光景、すなわちランドスケープデザインです。

ソフトとハード整備をコーディネートしながら、まちにとって良い風景を地域住民や観光客、店舗など、その場所にいるさまざまな人々とともに作りあげていくことで、地域の価値を高めていきます。

これまで道路や橋梁、景観デザイン、大学でのランドスケープデザイン演習・講義などに取り組まれてきた金光さん。長門湯本温泉観光まちづくりでは、新しく整備される施設や構造物が温泉街に違和感なく溶け込み、長く後世まで残っていくための外部空間のデザイン監修を担当されています。



▲ランドスケープデザインを取り入れ、ハード整備が進む

## まちづくりのキーパーソン



《略歴》

1968年生まれ。有限会社カネミツヒロシセツケイシツ取締役。趣味：旅行、食巡り、オペラ観賞

## 「人」の姿が活きるランドスケープ

### 金光 弘志さん

(長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議 委員)

これまで道路や橋梁、景観デザイン、大学でのランドスケープデザイン演習・講義などに取り組まれてきた金光さん。長門湯本温泉観光まちづくりでは、新しく整備される施設や構造物が温泉街に違和感なく溶け込み、長く後世まで残っていくための外部空間のデザイン監修を担当されています。

長門湯本の魅力について「山に囲まれた適度なスケール感、岩がむき出しになった音信川、先人が生活の場をつくるために積み上げてきた石の表情、古い建物や路地が残るいい意味での

田舎感」と捉え、今回のプロジェクトでは住民や観光客など「人」の姿が主役として活躍するような舞台装置、背景に徹した落ち着いたデザインを目指すとのことで、「さりげない居場所や背景のデザインで飽きのこない長く愛されるまちにつなげたい」と語ります。

来年度からの本格的な工事開始に向け、「私の役割で言えば計画や設計も大切ですが、最も重要なのは現場です。施工者のみなさんと良いハード整備ができるよう努めていきたい」と抱負を語りました。